



気球なぜ浮く? 160人学ぶ

鹿屋・海の学校

鹿屋市天神町の「ユ
クスオオすみ海の学

校」(旧菅原小学校)で10日、気球について学ぶイベント(南日本新聞社など主催)があった。高さ約25メートル、最大15人の気球が膨らむと、親子連れら約160人から歓声が上がった。校庭に畳まれていた

球皮(風船部分)に扇風機で空気が入り、バーナーで熱せられると、ゆっくりと巨体を持ち上がった。鹿児島市南小学校3年の大渡伶央君は「すごく大きいのに浮かぶなんてびっくり」。空気の温度差で浮く原理をビニール袋とバーナーで解説する実験や、発明の歴史に関する講話もあった。

トヨタ自動車が全国で展開する環境啓発活動「トヨタ・ソーシャル・フェス」が協賛。会場周辺の海岸清掃もあった。

(大川源太郎)